十一クラブに栄あれ！

会員　岡山県議会議員　**波多　洋治**

★戦後間もない昭和２６年２月１１日に、１１名のチャーターメンバーの元に設立された十一クラブは、早や６５年の永きに亘る歴史を刻んでまいりました。この間、鬼籍に入られた先輩達は実に４０名を数えます。国家・民族の興隆に寄与せんとの誓いを胸に刻みつつ、その思いを繋いでまいりました。浅学非才の私は、末席を汚すこと一年、諸先輩方の後塵を拝しながら、十一クラブ創立６５周年を心からお慶び申し上げます。

★さて、日本の経済を支えているのは内需であって，輸出では在りません。輸出はGDPにおいて16%の割合を占めているのに過ぎません。今は総需要を喚起するために，思い切った財政出動をするときであります。内需を拡大すれば、我が国経済が、拡大活性化するのです。しかし，政策で全てが救えるのか？　政治が打ち出す政策は、万全でもなければ，完璧でもありません。衣食足っても礼節を知らないさもしい日本人に成り下がり，ごね得が罷り通り，欺瞞と詐欺が蔓延り，欲望が充満し，正直者がバカを見るような世の中になってしまいました。戦後の日本を復興させた原動力は何か。敗戦直後の悔しさと怒り，そして歯を食いしばった粘り強さと勤勉，更には希望という力がありました。あの戦後の暗闇を勤勉と努力と忍耐でくぐり抜けてきた闘魂はあるのか。今問われているのは，戦後教育によって荒廃し，活力を失った日本人の生き様そのものではないのだろうか?

★二千年前，ギリシャの哲人・アリストテレスは，民主主義政治を三悪政治と評しました。

　その第一は，愚民政治であります。愚かなる民が，全体の大半を占めるから多数決となれば，政治の大勢は愚民の意志によって決定します。その第二は堕落政治であります。愚民の欲望に迎合するこ

とが，多数を得る早道となるのであります。愚民より選ばれたいものは，対立候補よりも更に大きく民衆に迎合し，接待合戦や甘言の争いとなるわけであります。その第三は，暴力政治であります。多数決こそ，全ての民衆の意志と認め、その中身や質を論じても，それは二の次であります。そこに多数決という暴力が罷り通ることになるのであります。

正に今日の世界と日本の政治を予言していたかのようであります。しかし，たとえそうであっても民主主義というものが採用され，実施される背景には，全体主義や独裁政権と違って，権力者が民意に反すれば，よりよい政治を期待して代表を交代させることが出来る，救いと希望の制度であり，また衆愚政治になっても，一体誰が選んだのか，選んだ責任は自分に在ることになります。故に民主主義は我慢の政治でも在り，納得の政治でもあります。もともと自由社会はすべてが自己判断自己決定であり，自己責任であり，頼りにするのは自分自身であります。いまこそ厳しさに立ち向かう逞しい勇気，雄々しい闘志を持とうでは在りませんか。

★「ハタと困ったら，波多に頼め。用事があったら洋治に頼め。」を１３年前の出馬以来のキャッチフレーズにして，県政改革に挑戦してまいりました。常に背中に，市民県民の要望を背負いつつ，その思いや願いを行政に届け，予算と仕事をもってお返ししたいと念じながら取り組んでまいりました。決して財政の豊かなときではありませんが，緊急性や重要性を念頭において，期待に応えられる政治活動をしたいと念じております。まさしくその政治家の心を練る新たな環境こそ十一クラブであります。十一クラブの弥栄を念じつつ、ペンを置くことに致します。　　［平成２７年　霜月晩秋］